



国立大学法人 東海国立大学機構

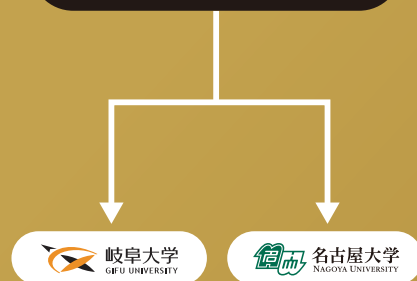
START!

# 新たな時代へのチャレンジ 東海国立大学機構を創設

## 東海国立大学機構とは？

私たちが目指すのは、世界有数の経済圏である東海地域にふさわしい新たな大学のモデルです。地域貢献をその使命とする岐阜大学と、世界の研究大学を目指す名古屋大学が、一つの国立大学法人「東海国立大学機構」を新設。そのもとで、それぞれの強みを最大限に活かしながら補い合い、次なる時代へパワーアップを図ります。

### 東海国立大学機構



## 1 | University Model

世界へ躍進する東海地域にふさわしい、  
新しい大学モデルの構築

地域に根ざす  
岐阜大学



世界の研究大学  
名古屋大学



無限大

～ 大学・産業界・地域が協働し、  
世界の発展に貢献する好循環を創生～

世界トップの「知」を  
東海エリアから

名古屋大学 総長  
松尾 清一

## 2 | Education

# 次代を見つめた改革を進め、 世界の舞台で活躍する人材を育成

豊かな人間性を育むリベラルアーツ教育の強化、  
英語や数理・データ科学などのコモンベーシックスを充実

- リベラルアーツとは、人間の根本的な教養であり、その教育は魅力的で素晴らしい人間になるために必須です。リベラルアーツ教育を行い、充実させることで、専門知識やコンピュータスキルだけではなく、「考える力」や「コミュニケーション能力」を醸成していきます。
- プログラミングや金融の世界では、確率・統計をはじめとした高度な数学や計算機の知識が必要です。また今後、コミュニケーションツールとしての英語は必須であり、世界で活躍するための土台となる基礎的な科目を充実させます。



### ICT・AIの活用により マルチキャンパスモデルを構築

- アクティブラーニングや自主学習を支援する環境の充実
- 教職員・学生がともに学び合い支え合うコミュニティの創出
- 両大学の教育資源・成果を共有し、学びの可能性を拡大

### 地域産業・世界に広がるネットワークを活かした 共創教育の創出

- 産業や地域の課題をテーマとした実践的な学び
- 産業界などとの共創システムを教育にも導入
- 留学生との交流、留学を通じたグローバル人材の育成

## 3 | Research

# 両大学の強みを活かすと同時に、 先端研究の拠点群を共同で

両大学の強みをさらに尖らせると同時に、大学間での共同研究を活発化。  
地域の関係機関とも連携し、機構としては初となる先端研究の拠点群をつくります。  
国際的にも魅力ある環境が学びの舞台となります。

### 名古屋大学の強みである研究拠点

化学・生物学融合研究 (ITbM)、未来エレクトロニクス研究、  
素粒子・宇宙物理学、プラズマ学術研究分野 等

### 岐阜大学の強みである研究拠点

糖鎖科学研究 (G-CHAIN)、スマート金型、航空宇宙、COC・COC+、  
流域圏科学、医学教育開発 等

### 両大学が連携する共同の研究拠点

#### ● 糖鎖生命コア研究拠点の形成：生命原理の解明から応用へ

アメリカ、カナダ、ヨーロッパなど世界各国が力を入れ、中国も台頭しつつある糖鎖研究について、両大学の研究者が集結し、世界で無二の統合的研究拠点を形成。糖鎖を核にゲノム、タンパク質などを統合的に研究することで、生命の原理の解明と応用を世界で初めて可能にします。

この他…

- 東海農学ステーション：アジアの研究・人材育成拠点へ
- 東海地域医療データ統合：日本中のシステム統合の礎に
- 航空宇宙：航空宇宙生産技術開発センターを形成等の実現を目指しています。



地域活性化をリードする  
世界ブランドの大学へ

岐阜大学 学長  
森脇 久隆

多くの研究者が世界をリード

ノーベル賞受賞者をはじめ、

◆最先端の研究拠点  
名古屋大学は、ノーベル賞受賞者をはじめとする優れた研究者を各分野へ輩出してきました。既存の権威にとらわれない自由闊達な風土が、世界の先端を切り拓く柔軟な発想を育んでいます。



赤崎 勇 博士

名古屋大学工学部の教授時代に、世界で初めて「窒化物半導体による、pn接合型高性能青色発光デバイス」を実現。青色発光ダイオードの実用化に向けて道を拓く。2014年ノーベル物理学賞受賞。



天野 浩 博士

名古屋大学工学部在学時に赤崎勇博士の研究室で世界で初めて「窒化物半導体による、pn接合型高性能青色発光デバイス」の開発に寄与。2014年ノーベル物理学賞受賞。



野依 良治 博士

名古屋大学理学部の教授時代に、分子の右と左を作り分けることができる不斉合成法を創出。医薬品や香料などの開発に貢献する。「キラル触媒による不斉水素化反応」の研究により、2001年ノーベル化学賞受賞。



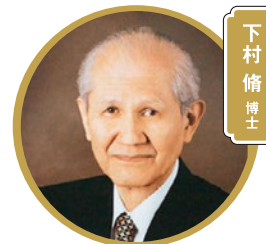
益川 敏英 博士

名古屋大学大学院理学研究科で素粒子理論を研究。小林誠博士とともに、新たな素粒子の存在を予言する「小林・益川理論」を発表する。「CP対称性の破れの起源の発見」により、2008年ノーベル物理学賞受賞。



小林 誠 博士

名古屋大学大学院理学研究科で素粒子理論を研究。益川敏英博士とともに、新たな素粒子の存在を予言する「小林・益川理論」を発表する。「CP対称性の破れの起源の発見」により、2008年ノーベル物理学賞受賞。



下村 脩 博士

名古屋大学理学部有機化学研究室の研究生として生物発光研究の道へ。オワンクラゲの緑色蛍光タンパク質(GFP)を発見し、生物学や医学研究に寄与する。「GFPの発見と開発」により、2008年ノーベル化学賞受賞。2018年逝去。

## 世界を率いる知識人を養成するために

### ◆次世代型の教育改革

東海国立大学機構設立を契機に、国内外のさまざまなフィールドで活躍できる、世界トップレベルの知識人を養成するために抜本的

な教育改革を進めています。知識を短期間に伝達するだけの教育から、学生の主体的学びを重視した質の高い「知

の獲得を目指す教育システムへと転換し、すべての学生へ魅力ある教育プログラムを提供し、人間力、基礎力を高めます。



### 魅力ある教育を目指して

03 学生が学部を超えてチームを組み、自主的に共通の課題の解決に取り組む「超学部セミナー(仮)」を2~3年次以降に導入し、卒業後も続く学びのコミュニティを形成します。

01 ICT等を活用し知識伝達と能動的学習とのメリハリをつけることにより、アクティブラーニング主体の教育に転換します。

04 数理・データ科学の素養を身につけた人材養成のため、教養教育・学部専門・大学院までの一貫した新たな体系的な教育を導入します。

02 専門教育の深まりに応じて、初年次から大学院までシームレスに展開するコンベンシックス教育(英語と数理・データ科学が中心)とリベラルアーツ教育を展開します。

05 英語教育の目標として、2023年度までに、TOEFL ITP550点以上のスコアを全学生の25%が達成することを目指します。  
(学部段階で20%、大学院段階で30%)

# 大学の今を起点に、未

## トングリ Tongali学生が次々と起業家へ

### トングリ ◆ Tongaliプロジェクト

社会に新しい価値を創造できる人材の育成に力を入れています。学内で培われた技術を実用化するための資金や起業家教

育の面で、充実した支援体制を整備。2016年度から展開している「Tongaliプロジェクト」では、アイデア創出から事業化に至る

までのノウハウやスキルを修得できる教育プログラムを提供し、ビジネスプランコンテストなども開催しています。キャンパスの一角にはco-workingスペース「Tongaliハウス」を設置。起業

家と起業家を志す者が積極的に交流することで、事業化の原動力を生み出す場となっています。これらの取り組みにより、近年、名古屋大学発の学生ベンチャーが数多く生まれています。

### 起業家として活躍する学生

株式会社オプティマインド  
代表取締役社長

松下 健

情報学研究科博士後期課程



組合せ最適化、機械学習などの技術を用いて、「どの車両が、どの訪問先を、どの順に回ると最適か」という配送ルート最適化の領域を中心に事業を展開

ZAZA株式会社  
代表取締役 CEO

永津 豪

工学研究科博士前期課程



訪日外国人が日本の家庭を訪れ、地元の料理ホストと家庭料理を一緒に作って食べられるシェアリングWEBサービス「airKitchen」を展開

株式会社トライエッティング  
代表取締役社長 CEO 兼 CRO

長江 祐樹

工学研究科博士後期課程



「明日の未来を、今日つくり出す(Creating The Future of Tomorrow, Today)」をミッションに、一部上場企業などの内部システムへのAI(人工知能)技術の組込および、AIソフトウェアの企画・開発・運営を行い、人材分析・在庫生産管理・シフト自動作成などの幅広いニーズに対応したシステム開発等の事業を展開

## 日本で唯一、ジェンダー平等を主導する大学に選出

### ◆ 女性が活躍する名古屋大学

女性や若手が活躍するための環境づくりを積極的に進めています。世界中から集まった優秀な女性研究者が先進的な研究に専念できるよう、午後5時以降の会議の原則禁止を推奨し、学内保育園・学内学童保育所を整備。研究力向上のための取り組みや女性リーダー育成のためのプログラムも進めています。さらに、理系女子学生コミュニティ「あかりんご

隊」をはじめとして、女子学生の育成にも力を注いでいます。こうした実績により名古屋大学は、国連機関UN Womenの「HeForShe」(世界的な連帯によるジェンダー平等推進運動)を主導する世界の10大学に、日本から唯一選出されています。



### 女性研究者紹介

#### 第一線で活躍する女性科学者を表彰する「猿橋賞」受賞者

理学研究科 教授

森 郁恵

「感覚と学習行動の遺伝学的研究」(2006年)



トランスフォーマティブ生命分子研究所 主任研究者

鳥居 啓子

「植物の細胞間コミュニケーションと気孔の発生メカニズムの研究」(2015年)



環境学研究科附属地震火山研究センター 講師

寺川 寿子

「地震活動を支配する地殻応力と間隙流体圧に関する研究」(2018年)



※職名は受賞当時

## 両大学でジョイントディグリー

名古屋大学は2015年度、日本初となる海外の大学との「ジョイントディグリー(共同学位)プログラム」を医学系研究科とオーストラリア・アデレード大学との間で始めるなど、世界標準の教育の推進と国際的な次世代研究者の養成を進めてきました。以後、2019年度までに国内で最多の6プログラムを有するまでになっています。

一方、岐阜大学では工学・応用生物系の修士・博士課程に、インドおよびマレーシアの大学との間で4つのプログラムを設け、教職員や学生の国際化、地域・産業界の国際連携支援に取り組んでいます。学生は相手国への留学を通して、異なる文化への理解と問題対応力を身につけたグローバルリーダーへと成長できます。

# 来をつくる

両大学の強み・ミッションを起点に、  
東海国立大学機構ならではの教育・研

**GIFU UNIVERSITY**

70<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY

岐阜大学は、2019年6月1日に  
創立70周年を迎えます。

## グローバルに発展する岐阜大学の實力

### ◆ 岐阜県の特徴と地域貢献

岐阜県は日本のほぼ中央に位置し、美濃地域には木曾三川(木曾川、長良川、揖斐川)が流れる濃尾平野が広がり、飛騨地域には標高3,000mを超える山々が連なります。豊かな自然を生かした農業や、陶磁器、刃物など古くからのづくりが盛んで、中でも製造業は全産業に占める就業者数が25%と高く、航空産業や自動車産業に関連した金属加工等が中心となる産業となっています。また、ITをはじめとする最新テクノロジーの研究、開発も進められています。岐阜大学は、このような岐阜県の各地域と強い繋がりをもつ中で、地域活性化

の中核拠点であると同時に、強み・特色を有する分野において、全国的・国際的な教育研究拠点を形成することを目指しています。学内には教育学、地域科学、医学、獣医学、工学、応用生物科学に加え、岐阜市立岐阜薬科大学が設置され、薬学を加えた各教育研究分野がワン・キャンパスに揃う全国有数の環境を誇ります。さらに、岐阜大学の強みである生命科学、環境・エネルギー科学、次世代ものづくり、医学教育開発の各拠点施設がキャンパス内に設置され、岐阜県や岐阜市の研究機関とも連携し、社会に貢献しています。

全国初、岐阜県との連携による教育研究拠点を設置



上段 / 家畜衛生の研究拠点: 岐阜県中央家畜保健衛生所(応用生物科学部附属家畜衛生地域連携教育研究センター(GeFAH)併設) 下段 / 食品科学分野の研究拠点: 岐阜県食品科学研究所

## 高度専門職業人の育成を通じ、 地域社会の活性化を目指す

特定の分野の専門性を拡張できる柔軟性を持ち、新しい概念などを生み出す創造性を培い、世界とのつながりの中で活躍できる国際性を備え、

グローバル時代における地域のあり方の急速な変化に対応し、且つローカルな視点で世界と地域をつなぐ人材を育成します。このような地域の

産業界、行政機関等の中核において活躍が期待できる高度専門職業人の育成を通じて、地域社会の活性化を目指します。

## (共同学位)プログラムを推進

**名古屋大学** オーストラリア・アデレード大学(医学系研究科)、イギリス・エディンバラ大学(理学研究科)、スウェーデン・ルンド大学(医学系研究科)、タイ・カセサート大学(生命農学研究科)、ドイツ・フライブルク大学(医学系研究科)、オーストラリア・西オーストラリア大学(生命農学研究科)

**岐阜大学** インド・インド工科大学グワハティ校(自然科学技術研究科、連合農学研究科、工学研究科)、マレーシア・マレーシア国民大学(工学研究科)

**【ジョイントディグリープログラムとは?】** 2つの大学で共通の学位プログラムを提供し、単一の学位(ディグリー)を授与する制度。

究の新たな価値を創出します。

## 世界初、糖鎖の可視化に成功

### ◆ 生命の鎖統合研究センター・G-CHAIN

私たちが健やかに長生きするための鍵を握る「糖鎖」。細胞上に存在する糖鎖は、細胞の種別を示す「目印」であり、外界の情報を受信する「アンテナ」です。岐阜大学では40年以上にわたり、多様な分野の研究者が協力して、トップレベルの糖鎖合成の研究を続け、世界で初めて細胞でダイナミックに運動する糖鎖の可視化に成功しています。



## 新たな世界標準へ。「スマート金型」がものづくりを変える



### ◆ 地域連携スマート金型技術 研究センター

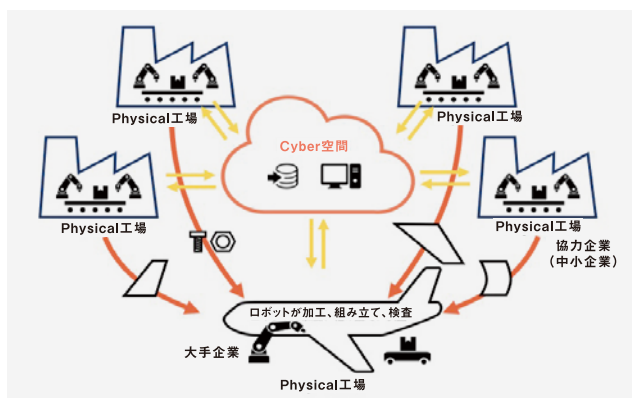
スマート金型開発拠点事業の中核施設として民間企業との共同研究により、世界初となるスマート生産システムの構築を目指しています。金型とその周辺分野の研究開発力をAIやIoT技術の活用でさらに強化し、ものづくりプロセスの一気通貫型実践教育を行い地方創生を推進します。

## 航空宇宙産業の

## 日本一の教育・研究拠点へ

### ◆ 航空宇宙生産技術開発センター

2019年4月に発足したセンターは、「日本一の航空宇宙産業クラスター形成を目指す生産技術の人材育成・研究開発」の拠点。サイバーフィジカル工場等の国内初となる航空宇宙産業の生産技術に関する教育と最先端研究を進めています。



## 地域にとけこむ地域リーダーの育成



### ◆ 岐阜大学COC事業、 COC+事業

地域協学センターが中心となり、地域のグローバルリーダーを育成するため「次世代地域リーダー育成プログラム」を全学生に開講しています。現地調査やインターンシップを通じ、地域・産業界の課題を学び、その解決に向けて実践的に取り組む中で、地域を志向し貢献できる学生を育てています。



岐阜大学と名古屋大学の法人統合によって「これからこの二つの大学はどのようなのだろう?」と興味をもたれる方も多いと思います。未来に向けて、教育や研究において統合のメリットを活かした新たな試みが進みますが、基本的な部分は変わりません。例えば、キャンパスの移転(統合)などは行わず、各大学・学部の入試、学部教育、就職などはそれぞれで行います。

**Q1** 国立大学法人岐阜大学と国立大学法人名古屋大学の両大学法人が統合(以下「法人統合」と表記)することによって、岐阜大学・名古屋大学の入試は変更が予定されていますか。

**A** 入試については各大学で行いますので、法人統合による変更等はありません。

**Q2** 法人統合後の学生の身分はどうなりますか。

**A** それぞれの大学名を名乗ることになりますので、岐阜大学に入学した学生は、岐阜大学の学生となり、名古屋大学に入学した学生は、名古屋大学の学生となります。

**Q3** 両大学が法人統合されることによる学生のメリットは何ですか。

**A** 法人統合によるキャンパス移転の予定はありません。学生生活のほとんどを入学した大学で過ごすこととなります。一方で法人統合により、語学教育、数理・データサイエンス教育を中心としたコモンベーシック教育の共同実施、e-learning教材の共有、海外研修の共同実施、図書館など相互の施設・設備の利用も可能になるなど、双方の大学のメリットを享受できるようになります。特に、数理・データサイエンス教育の強化に両大学で取り組み、数理・統計・情報を基盤として未来社会を拓くことができる人材の育成を目指します。

**Q4** 法人統合により、クラブ・サークル活動は変わるのでしょうか。

**A** 今後は、これまで以上に双方の大学の交流は盛んになります。  
例えば、一緒にクラブ・サークルを立ち上げるなど、活動の可能性が大きく広がることが期待されます。

◎ 質疑応答については、ホームページにて逐次更新していきます。 | <http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/tokai-system/>

